

第61回

埼玉県医学会 総会

日時

令和6年

2/25(日)

午前8時50分～

場所 埼玉県県民健康センター(現地のみ)

- 8:50 …… ●開会 埼玉県医学会副会長 寺師 良樹
9:00 …… ●会員研究発表
12:45 …… ●共通演題 (新型コロナウイルス感染症の診断・治療・後遺症)
14:30 …… ●総会
挨拶 埼玉県医学会会長 金井 忠男
来賓祝辞 埼玉県知事 大野 元裕 様 / 日本医師会会長 松本 吉郎 様
臨床研修医・医学生への表彰

シンポジウム

14:50 …… ○「COVID-19 今までとこれから」

座長 埼玉県医学会副会長 丸木 雄一

●「重症患者治療：埼玉県と日本の対応」

かわぐち心臓呼吸器病院 理事長兼院長 竹田 晋浩 先生

●「日本医師会の対応」

日本医師会常任理事 釜菴 敏 先生

●「次のパンデミックへの準備と応答のための教訓」

参議院議員 古川 俊治 先生

17:00 …… ●閉会 埼玉県医学会副会長 丸木 雄一

第61回 埼玉県医学会総会

シンポジウム

「COVID-19 今までとこれから」

「重症患者治療：埼玉県と日本の対応」

かわぐち心臓呼吸器病院 院長 / 埼玉県新型コロナウイルス感染症県調整本部 参与
埼玉県新型感染症専門家会議 委員
日本ECMOnet 理事長

竹田 晋浩 先生

重症者治療は困難を極め、世界中で数百万人が人工呼吸やECMOによる治療を必要とした。

【埼玉県】 第5波で人工呼吸やECMOを必要とする重症者が最多。転院元から人工呼吸やECMOを導入して重症患者治療病院へ搬送を行った。ほぼ毎日、31回行われた。

【全国】 日本ECMOnetによる重症治療の電話相談、講習会、ECMO搬送、データ収集システム。本邦の人工呼吸救命率78%、ECMO救命率63%（欧米50%前後）。



「日本医師会の対応」

公益社団法人日本医師会 常任理事 釜萯 敏 先生

日本医師会は、新型コロナウイルス感染症の発生当初から今日まで、全国の会員の協力の下、様々な取り組みや対応を行ってきた。今後は、新型コロナウイルス感染症対応の経験を踏まえ、より多くの患者に対応できる体制の構築が極めて重要となる。本講演は、新型コロナウイルス感染症に対する日本医師会の対応を振り返るとともに、新興感染症への診療所の対応力の向上に向けた、今後の日本医師会の取り組みについてもお示しする。



「次のパンデミックへの準備と応答のための教訓」

参議院議員 / 慶應義塾大学法科大学院 医学部外科 古川 俊治 先生

日本は、突出した高齢化を考慮すれば、SARS-CoV-2パンデミックに上手く対応出来た国であったが、医療従事者の分散、保健所の機能麻痺など、医療提供体制では課題が多かった。また、医療データの利活用の遅れのため、科学的な対応が出来なかった。その反省から、感染症法とインフルエンザ特措法を改正し、医療DXを進めている。疫学や医療の面では、COVID-19の経験を通じて、次のパンデミックへの準備と応答において有用な多くの科学的根拠が明らかにされた。

